

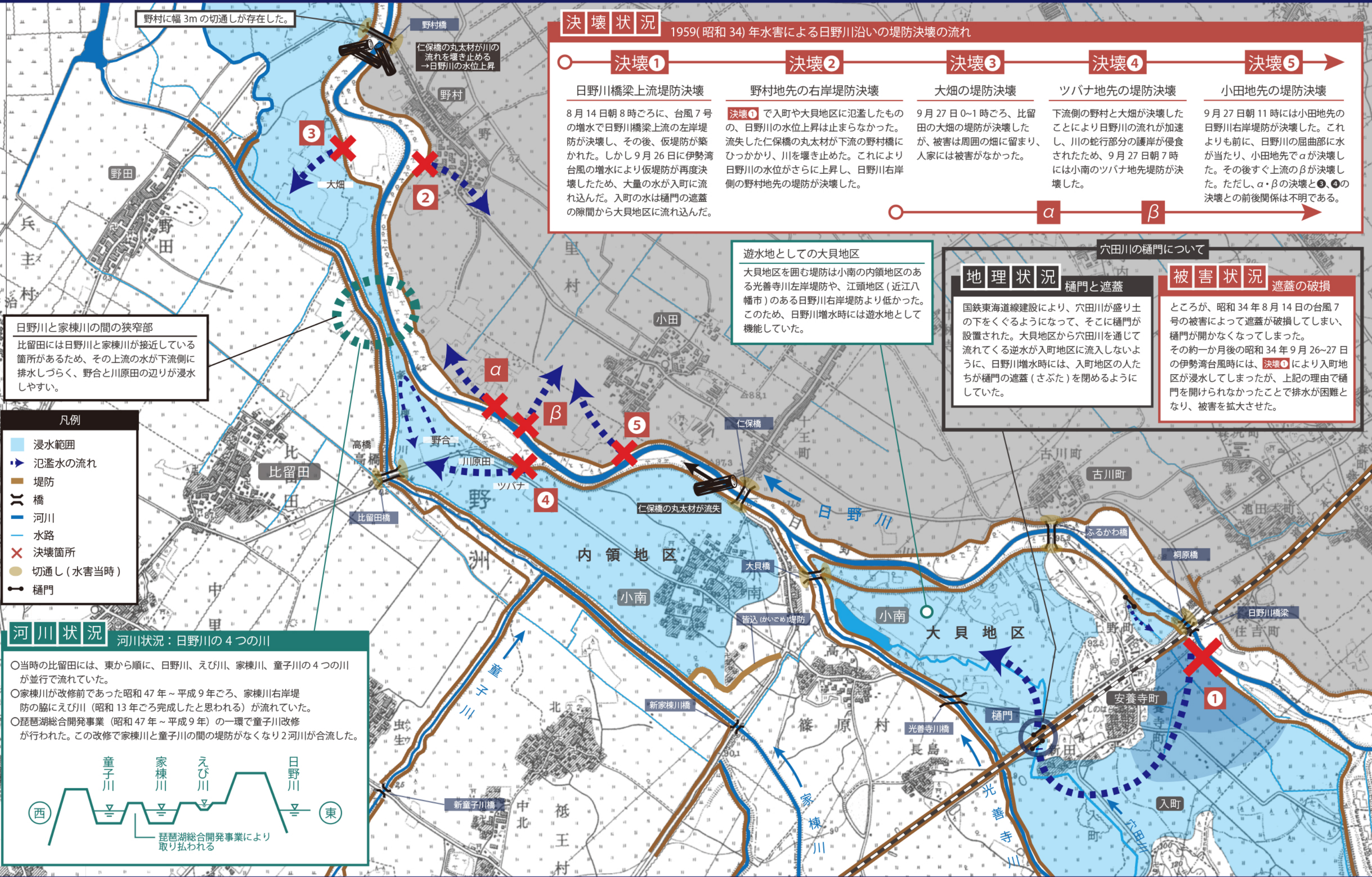
昭和34年水害時の日野川決壊マップ(野洲市・近江八幡市) 8月14日(台風7号)・9月26~27日(伊勢湾台風)

1959(昭和34)年8月14日(台風7号)・9月26~27日(伊勢湾台風)における日野川決壊・氾濫状況

0m 250m 500m

■地理状況 ■河川状況

2022(令和4)年10月12日の比留田自治会館での聞き取り調査と、2022(令和4)年11月16日、2022(令和4)年12月20日の小南自治会館での聞き取り調査、VHS『ストップ・ザ・水害!』(制作:日野川改修期成同盟会)に基づき作成
 ※日野川右岸側の浸水範囲は未確認であったため、描画しない。作成 関西大学 景観研究室(「1/25000 近江八幡」(昭和31年発行)上に加筆)



決壊状況

1959(昭和34)年水害による日野川沿いの堤防決壊の流れ

決壊①	決壊②	決壊③	決壊④	決壊⑤
日野川橋梁上流堤防決壊 8月14日朝8時ごろに、台風7号の増水で日野川橋梁上流の左岸堤防が決壊し、その後、仮堤防が築かれた。しかし9月26日に伊勢湾台風増水により仮堤防が再度決壊したため、大量の水が入町に流れ込んだ。入町の水は樋門の遮蓋の間隙から大貝地区に流れ込んだ。	野村地先の右岸堤防決壊 決壊①で入町や大貝地区に氾濫したものの、日野川の水位上昇は止まらなかった。流失した仁保橋の丸太材が下流の野村橋にひっかかり、川を堰き止めた。これにより日野川の水位がさらに上昇し、日野川右岸側の野村地先の堤防が決壊した。	大畑の堤防決壊 9月27日0~1時ごろ、比留田の大畑の堤防が決壊したが、被害は周囲の畑に留まり、人家には被害がなかった。	ツバナ地先の堤防決壊 下流側の野村と大畑が決壊したことにより日野川の流況が加速し、川の蛇行部分の護岸が侵食されたため、9月27日朝7時には小南のツバナ地先堤防が決壊した。	小田地先の堤防決壊 9月27日朝11時には小田地先の日野川右岸堤防が決壊した。これよりも前に、日野川の屈曲部に水が当たり、小田地先でαが決壊した。その後すぐ上流のβが決壊した。ただし、α・βの決壊と③、④の決壊との前後関係は不明である。

日野川と家棟川との狭窄部
 比留田には日野川と家棟川が接近している箇所があるため、その上流の水が下流側に排水しづらく、野合と川原田の辺りが浸水しやすい。

遊水地としての大貝地区
 大貝地区を囲む堤防は小南の内領地区にある光善寺川左岸堤防や、江頭地区(近江八幡市)のある日野川右岸堤防より低かった。このため、日野川増水時には遊水地として機能していた。

地理状況 樋門と遮蓋
 国鉄東海道線建設により、穴田川が盛り土の下をくぐるようになって、そこに樋門が設置された。大貝地区から穴田川を通じて流れてくる逆水が入町地区に流入しないように、日野川増水時には、入町地区の人たちが樋門の遮蓋(さぶた)を閉めるようにしていた。

被害状況 遮蓋の破損
 ところが、昭和34年8月14日の台風7号の被害によって遮蓋が破損してしまい、樋門が開かなくなってしまった。その約一か月後の昭和34年9月26~27日の伊勢湾台風時には、決壊①により入町地区が浸水してしまっていたが、上記の理由で樋門を開けられなかったことで排水が困難となり、被害を拡大させた。

- 凡例**
- 浸水範囲
 - 氾濫水の流れ
 - 堤防
 - 橋
 - 河川
 - 水路
 - 決壊箇所
 - 切通し(水害当時)
 - 樋門

河川状況 河川状況:日野川の4つの川

- 当時の比留田には、東から順に、日野川、えび川、家棟川、童子川の4つの川が並行で流れていた。
- 家棟川が改修前であった昭和47年~平成9年ごろ、家棟川右岸堤防の脇にえび川(昭和13年ごろ完成したと思われる)が流れていた。
- 琵琶湖総合開発事業(昭和47年~平成9年)の一環で童子川改修が行われた。この改修で家棟川と童子川の間堤防がなくなり2河川が合流した。

琵琶湖総合開発事業により取り払われる